# 農地利用の最適化に向けた意見

## 高槻市　市長に意見書を提出

高槻市農業委員会（森本茂会長）は10月3日、濱田剛史市長に対し、農委法第38条に基づき「令和7年度高槻市農地等利用最適化推進施策等に関する意見」を提出した。

農業経営継続のための支援としては、長期化する農業資材価格の高騰に対する市独自の支援継続や、経営所得安定対策事業の交付要件の緩和等を求めている。

また、学校学習田事業の継続に向けた取り組みや、学校給食において高槻産農産物に生産価格に見合った買取り価格を設定すること等を通じた地産地消の推進・食育啓発の重要性を訴えた。

この他、農地保全に向けた農業インフラの整備、有害鳥獣対策など農空間を取り巻く良好な環境の形成について、詳細に要望した。

森本会長は「農業者の代表機関として、地域農業の現状・課題などを踏まえて意見を提出した。高槻市内の農地の適正利用、農業の持続的発展に繋げてほしい」と話す。

濱田高槻市長に意見書を手交する森本会長（左）

伏見枚方市長（左奥）・副市長らと上山会長（右奥）をはじめ委員４人で意見交換した

## 枚方市　市長・副市長と意見交換

枚方市農業委員会（上山芳次会長）は10月21日、伏見隆市長、清水秀都副市長らとの枚方市農地等利用最適化推進施策に関する意見交換会に臨んだ。

枚方市では新名神高速道路の開通を控え、物流施設や資材置場等の転用圧力が高まっている。

農委からは①物流施設を含めた工業系用地が不足している状況は分かるが、その矛先が優良農地に向かっているのではないか、農地を守っていく立場も考慮してほしい、②複雑な転用案件の増加に伴って事務局職員の業務負担も増え、大規模な案件では関係機関との調整にも労力を要するので事務局体制を強化してほしい、といった点を求めた。

市長側からは、農地を守っていくという視点をもって、まちづくりに取り組んで行きたい旨が述べられた。

上山会長は「転用が増加する中で優良農地を守るためには、市の理解も重要。事務局体制の充実も欠かせないことだ」と話す。

（田村）

大阪農業時報

発行所
大阪府農業会議
大阪市中央区農人橋２-1-33
JAバンク大阪信連事務センター3階
電話 直通 06(6941)2701～2
http://www.agri-osaka.or.jp
発行人 中谷　清

年金のお受け取りはJAで
JAバンク大阪(JA/信連)
JAバンク大阪へ　検索

主な記事

◎農委大会講演要旨「いのちはぐくむ農と食～農業委員会への期待～」東京農業大学 名誉教授 小泉武夫氏……2面
◎東京都の農委会長ら視察 箕面、八尾の取り組みを発表…3面

## 風速計

夏以降、大いに世間を賑わした令和の米騒動も例年よりは高い米価が続くが、まずは順調な出来秋を迎えたようだ◆前代未聞の猛暑や一部地域で気象災害があったものの、全国的な稲の作況には大きくは影響せず、まずはひと安心である◆今回の一連の騒動から、米の消費は年々減少傾向にあるとはいえ、やはり主食として最も重要な農作物であることを国民も再認識したのではないだろうか◆東アジアモンスーン地帯にある我国に最も適応した作物は水稲であることに変わりはない◆近年、後継者不足や作業効率の悪さから、中山間地域を中心に水田の遊休地化が急速に広がっている。安定した食料の確保を図る観点からも、農地のとりわけ水田の確保と維持は重要である◆今回の米騒動を一過性のものにするのではなく、これを契機に、主食としての米について、国民のコンセンサスを得られるような議論の広がりを期待したい。

（光崎）

農委大会講演要旨

# 「いのちはぐくむ農と食～農業委員会への期待～」

東京農業大学　名誉教授　小泉　武夫　氏

ここ約10年間の日本農業は、地産地消・自給率という視点で変化が乏しい。

これからの都市農業の発展には如何にして儲かる農業を形成し、担い手の確保・地産地消の促進へとつなげるのか、試行錯誤が必要となる。命を育む上で最も基礎的な要素が農産物であると再認識し、農産物を生産する農業分野への注力が重要だ。

## 「発酵」とは付加価値の創造

### 農業所得向上の優良事例

JA大分大山町（矢羽田正豪組合長）では、国からの補助金とJAの資金でパン工場を建設。スーパーマーケット内のパン屋の進出で雇用機会が減少していた地元のパン職人をJAのパン工場で雇用し、地元産の小麦を使ったパンで収益を上げた。また、大山町の農産物や加工品を販売するJAの直売所では、農家の奥さん達120人を雇用し農家所得の向上を図った。

山梨県では発酵を用いて地域活性化と農業所得向上を図る「美味しい甲斐開発プロジェクト」を実施。山梨県のブランド豚肉「富士桜ポーク」は、豚肉の全体的な高品質化で値段が上げにくい現状への打開策として、豚肉をみそ漬けに加工して販売。

そのほか引退したぶどう農家のぶどうの棚を使用し、吊るして栽培することで高糖度となる天空かぼちゃを生産。天空かぼちゃを蒸してお湯と米麹を加えることで甘酒に加工している。また天空かぼちゃをはちみつと加工してスイーツ店に卸し、好評を博している。

発酵とは農産物の付加価値を高めるだけでなく、地域の活性化にも繋がることを伝えたい。

無償での情報提供を行う「全国まちづくりネットワーク協議会」や「発酵文化推進機構」をぜひ活用し、儲かる農業として発酵を取り入れることを考えてみてはどうか。

（林佑）

# 新規就農者で活性化

河南町

河南町まち創造部農林商工観光課と農業委員会（奥野淳一会長）は11月1日の同町石川地区を皮切りに、11月22日までに7地区で集落座談会を開催。

白木地区（寺田の一部・北加納・南加納・平石）座談会では、町が地域計画の趣旨・目的の説明、事前の実行組合長や農業者との意見交換で示された課題や解決策や農地中間管理機構経由での農地貸借の解説、地域計画アンケートの集計結果の報告を行った。

その後、参加者全員で①農業をする中での地域の現状と課題②地域における農業の将来の在り方③課題を解決するために必要なことをテーマに意見交換した。

主な意見では、①水利を維持して行くのが困難、省力化が必要②新規就農者が地元農業者とつながる相談や話し合う場が必要③ハウス栽培を始めるのに多くの初期投資が必要との課題が出された。

地域における農業の将来の在り方については、①担い手が参入できる地域②高収益作物の栽培③法人化された経営体が雇用することで技術や経営能力を習得し、そこで新規就農者が循環される。

課題を解決するために必要なこととして①担い手育成のために農業塾の開設②初期投資を削減するための居抜きハウスの紹介③水利改善のためにパイプライン化④個人では農業が厳しいので、グループ化で協業を行うとの意見があった。

後日、町がこれら意見を基に地区の役員と協議してとりまとめ地域計画案を検討。残る6地区でも同様の手法で座談会が開催された。

（林成）

白木地区座談会の様子

## 月間農政ファイル

10・21～11・20

10・29　農水省は令和6年産米（水稲うるち玄米）の農産物検査結果を発表。9月30日時点で全国の1等比率は77・3％で、前年同期比で17・7％上昇した。過去5年平均も4・1％上回る。近畿6府県では55・5％。前年産同期比で4・3％上昇した。大阪府は前年同期から31・3％の上昇で52％。

10・29　農水省は、令和6年の全国の耕地面積（7月15日現在）が427万2千ヘクタール（前年比0・6％減）であることを公表した。大阪府は前年から100ヘクタールの減少で1万1900ヘクタール（前年比0・8％減）であった。

11・12　政府は第21回規制改革推進会議を開き、今後の規制・制度改革の検討課題について協議した。農業分野では、所有者不明農地等の利活用、スマート化による農業の高度化、農業の効率化や働き手確保に資する農業用施設の設置の円滑化などが挙げられた。来年夏に答申を取りまとめる。

# 東京都の農委会長ら視察
## 箕面、八尾の取り組みを発表

10月28日から29日にかけて、東京都内の農業委員会会長ら59人が来阪し、箕面市、八尾市における都市農業振興に係る取り組みの研修が行われた。

28日は大阪市東淀川区・大阪コロナホテルで、箕面市農業公社の取り組みについて研修。箕面市農業委員会の稲垣恵一会長の挨拶の後、同農委の佐治室長が公社の取り組みを説明。

公社が遊休農地を借り受けて耕作することで、市内の遊休農地ゼロを達成するとともに、学校給食への出荷を通じた地産地消推進や、新規就農者の育成・輩出など様々な相乗効果が生まれていること等を説明した。

また、公社で農業を学び、市内で新規就農した後に委員となった生田梨恵委員から公社での経験を踏まえた取り組みを発表。この他、農業会議から府内の都市農業振興に係る取り組み状況、大阪府からは大阪版認定農業者制度についての説明を行った。

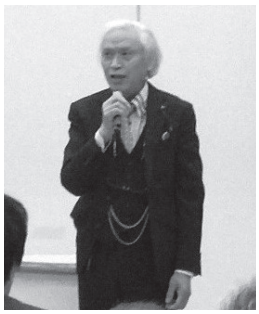
公社設立は後継者問題など当時の農業課題の解消も一つの目的と説明

続く29日は、八尾市・大阪府中河内府民センターで八尾市の農業及び市特産の花き生産について研修。八尾市農委の稲葉事務局長が八尾市農業の概要や地域計画、都市農業振興基本計画の策定等について説明した後、花き農家である齊藤暁農委会長が花き生産について説明した。

傾斜地で水はけの良い同市東部には、100年以上続く花木産地が拡がり、消費地から近い立地を活かし、多様な品目が生産・出荷されていると述べた。

その後は、JA大阪中河内営農総合センター及び松岡農園で、都市農地の貸借に係る取り組みについて研修。同JAの三谷氏より、遊休農地の解消を目的に平成29年に農地保全チームを発足し、八尾市が本府で生産緑地の貸借件数が最多となっていることを説明。市内で最も多く生産緑地を借り受けている松岡孝明氏からは、JAが貸借の調整に入ることで、スムーズに農地を借り受けられているとの説明があった。

（沼田）


花き生産の歴史を説明する齊藤会長

松岡孝明氏が若ごぼうのハウスの前で経営概要を説明

# 市長と共に農地パトロール
## 遊休農地の貸借について検討

八尾市

八尾市農業委員会（齊藤暁会長）は、11月7日より農業委員・推進委員・事務局職員の全員体制で農地パトロールを実施。12日には大松桂右市長、齊藤会長や役員、地区担当委員の農業委員計6人と事務局2人で南高安地区の農地パトロールを実施した。

当日は、冒頭大松市長が「農業委員・推進委員の日々の巡回に感謝する。市では、現場の事情を知る委員からの意見を踏まえながら農家と担い手のマッチングを進めていきたい」と述べ、引き続き現場活動にご尽力いただきたいという激励の言葉が贈られた。

各委員と市長は、集団農地内で5年前から遊休化し、周辺の農家から苦情が出ている農地を巡回。接道しており日当たりも良いことから本来営農条件が良いものの、遊休化して一定年数が経過したことで復元しづらくなっている農地だ。

委員からは、「早めに解消しなければ貸せる農地も貸せなくなる」と現状を憂える意見が出たほか、大松市長からも「なんとか貸借に繋げられないか」という声が挙がり、委員は市の農地バンク制度や市民農園など様々な方策について話し合った。

南高安地区は山間部では遊休化が進んでいる地域もあるが、担い手も多く、特に平野部を中心に八尾えだまめや、八尾若ごぼうの主産地となっている。齊藤会長は、「これまで遊休農地対策に取り組んできたが、依然として課題になっている。近隣農家が耕作しているケースが多い平野部の遊休農地は最優先で解消を進めたい」と話す。

（沼田）

齊藤会長や地区担当委員が大松市長に遊休農地について説明

# 経会・法人協が府外視察

## 平田観光農園・イオンアグリ

大阪府農業経営者会議（中筋秀樹会長）と大阪府農業法人協会（藤田善敬会長）は11月5日から6日にかけて、農業経営改善視察研修を実施。広島県三次市の平田観光農園と兵庫県三木市のイオンアグリ創造（株）三木里脇農場をそれぞれ視察した。

平田観光農園では、加藤専務取締役が取り組みを説明。約15ヘクタールの果物観光農園で、年間を通じて農産物が絶えないようリンゴ、ブドウ、イチゴなど10品目を超える品目を生産している。

「果物を通して農業の面白さを伝える」ことを目的に栽培事業だけでなく、加工事業・飲食事業・体験事業と4事業に取り組み、長野県に工場を置くドライフルーツ加工や農園併設のレストラン、更には食育推進の視点から子どものみが収穫し学べる「くだもんがっこう」という安価なコースが好評を博すなど多様な取り組みを展開している。

イオンアグリ創造では、新井生産本部西日本直営事業部長と、山崎農場長が取り組みを説明。イオングループの子会社の一つで、生産から販売まで一つのサプライチェーンを作れる小売ならではの強みを持つことや、若者が農業を「一つの職業として選んでもらえるような産業」にしていきたいという理念のもと設立された。現在は全国に21の農場を抱え、安全安心の視点からGLOBALG.A.Pの基準により生産。近隣の店舗には、今朝どりで直送できるのがグループの強みとなっている。

三木農場は開園後11年目を迎え、8ヘクタールで生産。生産面積の過半で青ネギの周年生産を行い、店舗から出てしまう食品残さを用いたリサイクルループ（地域循環モデル）を実施している。

（沼田）

平田観光農園では10を超える品目の観光農園を展開

## なにわ農業賞受賞者紹介79

# 農業を通じて地域貢献にも取り組む

## 貝塚市　北野　彰一さん

平成29年に「なにわ農業賞」を受賞した北野彰一さん（65）は現在、奥さんと従業員5人で、地域特産の水耕ミツバ14アールと水ナス13アールを中心に、シュンギクや水稲80アールを経営している。

北野さんは、もともと農業を継ぐつもりであったが、大学農学部卒業後は企業に就職してサラリーマン生活を経験し、30歳で退職して親元就農した。

当時、父親の熊太郎さんは60歳ほどであったが、息子の就農を機に経営全般を彰一さんに移譲して、以後、息子の手伝い等に専念。これには彰一さんも少なからず驚き、責任の重さと親の想いを実感したそうだ。

それまでは、主に水ナスと米、タマネギを作っていたが、彰一さんの就農後は、農協の勧めもあり、当時すでに地域の特産になっていた水耕ミツバを新たに導入し経営の中心に据えて、現在の品目構成を確立した。

府内の意欲ある農業経営者の集まりである大阪府農業経営者会議（事務局：大阪府農業会議）にも父のあとを継いで加入し、特に当時同会議が推進していたパソコンを活用した経営簿記や農作業管理等については熱心に勉強して、早い時期から自らの経営に取り入れた。

これまで地域の実行組合等の役員を歴任するほか、地元警察の要請を受けて、少年達の健全育成や更生支援活動の一環としての農業体験（田植・かかし立て・収穫作業等）を自らの水田で実施し、収穫された米を近隣の高齢者施設に寄贈するなどの地域活動にも熱心に取組んできた。

現在、彰一さんには心待ちにしていることがある。それは、再来年あたり、息子の達郎さん（30）が今の仕事を退職して戻ってくる予定であること。達郎さんは学校卒業後、農業を手伝っていた時期があり、その時に地元の4Hクラブに入会し、サラリーマンの現在も、将来の就農を意識して、会員として地元の若手農業者との交流は続いているそうだ。

彰一さんが思い描く夢の実現まで、もうあとしばらくだ。

（光崎）

「これからは息子がやりたい農業を応援したい」と話す北野彰一さん

# 大阪市で落花生収穫体験

## 体験農園 あじわいが協力

11月13日、大阪市住吉区内の農地で、消費者を対象とした落花生の収穫体験イベントが行われた。

イベントは、来春に大阪市中央区の中船場地域で辰野株式会社の自社所有地の一部（更地）を活用した農園の開設を見据え、同社と、企業・関係機関らで構成されるなかせんば農園（仮称）検討委員会が主催したもの。事前公募により親子連れなど計20組が参加した。

イベント当日、参加者への指導を行ったのは、体験農園 あじわいの上田智史代表（26）。約10アールの農地で貸農園や稲作、農業体験を中心とした取り組みを展開している。

上田代表が管理栄養士養成学校に通っていた頃、農業体験で獲れたての美味しさを知った友人たちが、それまで苦手だった野菜を好きになったという体験を目の当たりにしたことが取り組みの原点になっている。

イベントでは、収穫期を迎えた落花生を参加者たちが一斉に収穫。「落花生は土の中に莢がつくことを知らなかった」「畑に農産物が出来ているところを子どもに見せられて良かった」など様々な声があがった。

その後は収穫した落花生を上田代表が茹で、参加者らが実食。獲れたてならではの甘みに参加者から驚きの声があがった。

今回の収穫体験について、辰野株式会社の岡本浩典次長は、「畑で実際に体験することで、参加者だけでなく、主催側も農園開設にあたっての運営の参考になり良かった」と振り返り、上田代表は、「農業に対して潜在的な関心を持っている人は多いと思う。参加者の方々に実際にやってみると農業は楽しいということを知ってもらえたら嬉しい」と話す。

（沼田）

老若男女さまざまな参加者が落花生を収穫した

# 人づくりが大切

## 雇用に関する研修会

府みどり公社と農業会議は10月28日、南河内府民センターで雇用に関する研修会を共催し、これから本格的に雇用を考えている府内の7農業経営体の代表等が参加した。

講師として特定社会保険労務士の橋本將詞氏が「長く働いてもらう農業経営の作り方」と題して講演。これからの農業を「人づくり」の観点から、具体例を交えて農業における労務管理の基本や、経営者の心構え等について説明した。

また、農業会議からは、雇用に際して活用できる国の助成事業「雇用就農資金」の内容等について紹介した。

今回の研修会では、参加者の大半が正社員雇用は初めてといったこともあり、研修終了後も残って橋本氏に熱心に個別相談する姿が見られた。（光崎）

# 大阪産（もん）の魅力を堪能

## おおさかもん祭り ～Road to EXPO 2025～

当日は大人から子供まで大勢の来場者でにぎわった

11月9～10日、大阪市・天王寺公園エントランスエリア「てんしば」で「おおさかもん祭り～Road to EXPO 2025～」が開催され、「大阪産（もん）」の魅力が体験できる約60ブースが出展。泉州きくな（しゅんぎく）や西成産しいたけなどの農林水産物と、加工品の販売・試食が行われた。

会場内のステージでは、「大阪産（もん）名品」に新しく認証された計18商品のお披露目会や、大阪府が5年連続で出荷量日本一のきくなのPRなど多数のイベントも実施。

ブースエリアではJA大阪泉州・JAいずみの・JA堺市が共同で実施する「泉州きくなプロジェクト」の一環として、連携している府泉州農と緑の総合事務所農の普及課がブースを出展。泉州きくなを使用した大福やサラダの試食などを実施した。

同課の増本副主査は「軸が少なくて葉が柔らかく、苦みが少ないため、生でも美味しく食べられる泉州きくなの魅力を消費者に直接発信できる貴重な機会」と話す。

府環境農林水産部流通対策室ブランド戦略推進課の池田主査は、「大阪産（もん）や大阪産（もん）名品のPR、大阪・関西万博の機運醸成を図る目的で開催した。地産地消は輸送に係る$CO_2$排出量の削減にもつながるため、環境にやさしい『大阪産（もん）』を味わっていただきたい」とアピールした。（林佑）

# 農大生と農業経営者がマッチング

学生からも様々な質問が飛び交った

地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所農業大学校は11月6日、雇用就農に向けたマッチング交流会を実施し、農大生16人と8者の農業経営者・農業法人が参加。

この交流会は雇用就農を希望する農大生が経営体の求める人材や在学中に習得すべきことなどを意見交換するために開催。

交流会は第1部で農業会議がインターンシップ研修や雇用就農資金など雇用に向けて活用可能な制度を、8経営体が各社の経営概要を説明した。

第2部は学生5人、2～3の経営体3班に分かれて班ごとに30分で意見交換し、その後、学生が次の班に移動する形で全班との経営体と意見交換した。

経営体からは、「農業は栽培だけでなく、色々な仕事がある。常に好奇心を持って作業をしてほしい」「次の作業を見据えて段取りを考えることが重要。作業がシステム化された会社でアルバイトすることも就農に役立つ」「お客さんとの意思疎通のために高いコミュニケーション能力が必要」などの意見があった。

一方、学生から「農大で技術は学ぶが、就農して販路をどう開拓すればよいか悩んでいる」との質問に「まず、よい品物を作り、直売所に少量でいいので毎日、出荷を続ける。そうするとどこかから声が掛かり、販路が広がる」と答えるなど活発な意見交換が行われた。

意見交換後、農大生、経営体は関心のある相手を回答。意向が一致すれば11月末以降に農場見学や面談を実施する予定。

また、農大は令和7年度生を募集中。願書受付は、2年制の総合課程は12月13日（金）、1年制の短期実践課程は12月12日（木）まで。詳細は電話072・979・7032まで。

（藤岡）

# 天気のおっちゃんのコラム

気象予報士、元普及指導員　森田　彰朗

## 第九回「西高東低の気圧配置」

### 冬の北西風の原因は？

12月に入るといよいよ冬の到来です。今年は夏の高温のせいで、本格的な冬の訪れは遅くなりそうですが、冷たい北西風がまもなく吹き始めます。冬型気圧配置について解説します。

### シベリア高気圧から風が吹く

天気図を見てください。大陸の北の方に高気圧があり、北東の太平洋上に低気圧があります。風は大きく見れば、高気圧から低気圧に向かって吹くので、日本列島は北西から東に吹く風の通り道となります。このような気圧配置を「西高東低型」とか「冬型」と呼んでいます。

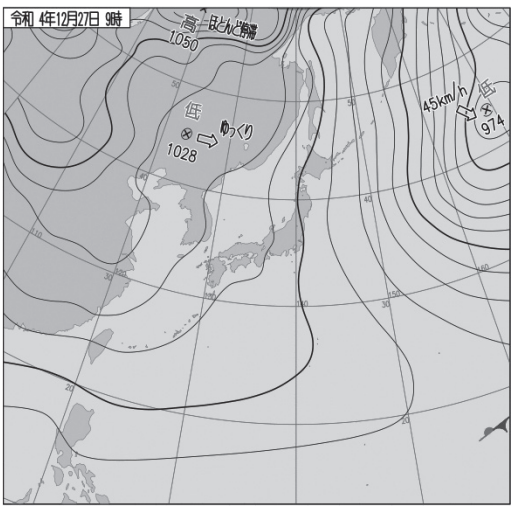
### 日本海に筋状の雲が発生

冬のシベリアで生まれた冷たく乾いた風は、冬の日本海の上空を通過します。日本海には対馬海流という暖流が流れており、冬でも海水温が高いので、乾いた風に大量の水蒸気を供給し、雲が次々と発生します。こうした雲は風の流れに沿って列を作って次々と並びます。天気予報によく出てくる「筋状の雲」というのはこれのことです。

この雲が本州中央の山岳地帯にぶつかると、日本海側に大量の雪を降らせます。これが北陸や東北の大雪の原因です。

### 大阪では山道の凍結に注意

大阪の平野部では、北西の風が強く吹いても、雪雲は中国山地などで遮られます。そのため、この気圧配置では、農業被害が出るような積雪はあまり起こりません。しかし、北摂の山間部を中心に、日当たりの悪い山間の道路では、少しの雪が凍結の原因となりますので、夜間や早朝の移動はご注意ください。




西高東低の気圧配置（気象庁HPより）

## 第104回常設審議委員会

農業会議は11月20日、第104回常設審議委員会を大阪市内・JAバンク大阪信連事務センターで開いた。

第1号議案の農地法第4条及び第5条の規定に基づく意見聴取に回答する件（箕面市、貝塚市、泉南市、堺市、太子町、富田林市、羽曳野市、東大阪市、枚方市、交野市農業委員会会長）22件（2万4643平方メートル）を許可やむを得ないと認め、回答することを議決した。

委員から開発予定地区の地質調査（一時転用）案件について、過去にも同じエリアで出ているのではとの質問があった。説明者からは1回目は土木工事の調査、2回目からは建築工事の調査であると説明があり、委員からは市の環境影響評価審査会に係る案件で高盛土があるので、都市整備部と連携し、スケジュールを把握するように努めるようにとの意見があった。

**【第1号議案】**

| | 件数 | 面積（平方メートル） |
|---|---|---|
| 第4条 | 5 | 3777 |
| 第5条 | 17 | 2万866 |
| 合計 | 22 | 2万4643 |

（農地区分別件数は、3種農地16件、2種農地4件、1種農地1件、農用地区域内農地1件）

新団体会員代表者紹介

## 能勢町長に岡田氏
## 阪南市長に上甲氏

岡田正文氏

10月20日、能勢町長選挙の投開票が行われ、新たに岡田正文氏が10月24日付けで能勢町長に就任した。

上甲誠氏

また、10月27日、阪南市長選挙の投開票が行われ、新たに上甲誠氏が11月12日付けで阪南市長に就任した。

両氏は就任日と同日付けで能勢町、阪南市からの届け出により府農業会議の団体会員代表者に就任した。

## 各地区連で視察研修

泉南地区農業委員会連合会（会長・茂野憲一岬町農委会長）は11月11日に奈良県内で視察研修を実施。橿原市農委の農地利用最適化活動のほか、明日香村地域振興公社の取り組みについて研修を受けた。

中河内地区農委連合会（会長・大西博東大阪市農委会長）は11月14日に滋賀県内で研修を実施。守山市農委との意見交換のほか、アグリパーク竜王などを見学した。（北川）

## 統計調査にご理解ください
### （2025年農林業センサス）

農林水産省では、令和7年2月1日現在で「2025年農林業センサス」を実施します。

農林業センサスは、農林業の実態を明らかにし、国や都道府県、市区町村はもちろん各方面にわたり、広く利用できる総合的な統計資料を得るための調査です。全国の農家や林家をはじめ、すべての農林業関係者を対象に行われる『農林業の国勢調査』ともいうべきものです。皆様のお宅や会社等に調査員が調査に伺いましたら、ご協力をお願いします。

### パソコン・スマホ等からスムーズに回答も可能です

農林業センサスは、調査員による聴き取りだけでなく、パソコンやスマートフォン、タブレットで回答することもできます。24時間いつでも回答可能で、回答が必要な調査項目が個別に表示されるため、流れに沿ってご回答いただけます。

なお、回答データはセキュリティ対策により安全に守られ、統計法で認められている統計の作成・統計的研究及び他の統計調査の名簿作成にのみ使用されます。統計以外の目的では使用されません。

（キャンペーンサイトQRコード）

（大阪府総務部統計課産業・労働グループ提供）

## 大日本農会農事功績表彰
### 寝屋川市・南　保次氏

南保次氏

元大阪府農業経営者会議副会長で、元寝屋川市農業委員会農業委員の南保次氏（62）が、令和6年度大日本農会農事功績表彰で、緑白綬有功章を受章した。

継承した大規模水稲作経営にイチゴの観光農園を導入し、環境制御機器による合理的な肥培管理で高品質・高収量を確保するとともに、ブドウ栽培を加え年間を通じた観光農園経営を確立。また、小中高生等の食農体験や交流イベント等を通じて、都市農業についての地域住民の理解を促進してきたほか、府「農の匠」として農業大学校生を受け入れ、担い手の育成にも尽力したこと等が評価された。

# 労務管理学ぶグループワーク
## 雇用就農資金事業説明会

大阪府農業会議は10月11日、大阪市内・JAバンク大阪信連事務センターで「雇用就農資金」（令和6年度第2回募集）事業説明会及び研修会を開き、同事業で採択された8経営体の研修指導者及び研修生計16人が出席した。

当日は、農業会議より事業実施の留意点について説明。その後、特定社会保険労務士の橋本将詞氏による「労務管理と雇用就農者の育成強化」をテーマとした研修とグループワークを実施した。

あわせて、NOSAI大阪より収入保険制度について、農業会議より農業者年金制度についての説明も行った。（沼田）

## 随想

# スポーツ×農業×教育×地球環境

全国農業協同組合連合会大阪府本部
府本部長　松村　豊

### 「月まで走れ!!」

この言葉を久しぶりに思い出しました。

この言葉を最初に言ったのは、私の恩師で社会科の教師でありサッカー部の監督です。当時、大阪の高校サッカー界では有名な方でした。社会人になってからも30年以上お付き合いをさせて頂き、私の仲人も引き受けて頂きました。

「月までの距離を練習や試合で走らなければ、弱いチームは強くなれない」と言うところからきている言葉らしいです。スポーツは根性・・・昭和ですね（笑）

この思いは、のちに後輩にも脈々と受け継がれ、全国大会に大阪代表として出場し国立競技場まで勝ち進んで行きました。激闘の末、青森山田高校に準決勝で敗れはしましたが、母校は一気に全国の高校サッカー強豪校になりました。

「ひたむきに真面目に、継続は力なり」という教えだったと今でも思っています。当時は毎日、夜遅くまで練習して、サッカー部なのに陸上部より走っていました（笑）

その恩師は、私にとって一番の良き理解者であり、兄貴であり、親父でした。

### 還暦を迎えて思う食事の大切さ

自分も恩師が亡くなった同じ60歳の還暦を迎えて思うことがあります。

成長期の中高生や大学生にとって、アスリートでなくとも質のいい食事は本当に大切です。食事の質を左右するのは、お米をはじめ国産の安全で新鮮な農畜産物です。

しかし、志し半ばにして60歳で他界されました。この人がいなければ私は今、JA全農大阪で頑張っていなかったと思います、そのぐらい私にとって影響力のあった方でした。そして、「根性と挨拶と我慢と協調性と食事の大切さ」を教えて頂いた方です。

私は学生時代よく練習の前におにぎりを食べていました、冷めてもとても美味しかった。もちろん、うちの田んぼでとれた「大阪のお米」です。食べなければ毎日走れなかったし頑張れなかったと思います。

恩師は病気になってから身体にいい色々な国産の食べ物に興味を持たれました。私の家で収穫したお米と野菜、お正月には石臼でついたお餅をいつも届けていました。「お前の家の田んぼにサッカー部の寮を建てて、横の田んぼで出来たお米や野菜を選手に食べさせてやりたい」といつもおっしゃっていました。

### 「スポーツ×農業×教育×地球環境」

まさにその話は、現在、JAグループ大阪と大阪農業振興サポートセンターがJリーグのプロを目指す若手選手と取り組んでいる大阪産のお米作りの活動です。私はその活動を見たり聞いたりするたびに亡くなった大好きな恩師の事を懐かしく思い出しています。

最近では、柔道のメダリストやプロ野球選手、様々なスポーツ選手が引退後の新しいキャリアとして「農業」を選択し取り組んでいます。若者の農業に対する考え方も、儲からずにきついイメージから少しは変わってきたのではないでしょうか。

農業が身近にあることで都市住民の農業やJAに対する理解も深まり、地域の活性化にも繋がっています。スポーツを通じて多くのアスリートが日本の農業、国産の安全で新鮮な食べ物の大切さを紹介しています。その活動がJAグループを中心にもっと広がっていけば若者が農業に興味を持ち、活性化につながっていくのではないでしょうか。

農業イベントの開催、農地の提供、新規就農者へのサポート、労働力支援、農地マッチングなどJAグループの役割は今後ますます重要になります。

◇筆者の紹介（まつむら　ゆたか）
昭和39年生まれ。大阪府高槻市在住。関西大学社会学部卒業。昭和62年大阪府経済連入会。平成13年全農との組織統合後、農住施設部門において、時代の変化に応じた事業を展開。令和6年、府本部長に就任。「人の繋がり」を重視し、共通目的を掲げた組織づくりと人材づくりを目指す。